



報告書 おにわの2年間

2023年12月 一般社団法人おにわ

2021年からスタートしたおにわの事業は、2023年10月、沖縄県特定妊婦等支援特例事業の委託先となりました。

ここまでヨチヨチ歩きのおにわを応援して下さった皆様のおかげです。ありがとうございます。

ここでは、私たちがどのような営みを大事にしてきたのか、そしてそこでなにを発見したのか、これがどのように取り組んでいくのかなどについてまとめました。

〔おにわが母子にしてきたこと①〕 安全な環境で暮らす

これまでおにわでは、ママたちが安全な環境で暮らすことを重視してきました。

大切にしてきたのは、

毎日、温かい出来たてのご飯を食べること、

毎日、快適な自分の部屋で眠りにつくこと、

自分の身体を清潔にしようと思えるようになること、

身体の不調に気がつくことができること、

病院に行こうと思えること、

子育ての手技を身につけながら、

子どもの清潔を保つことができるようになることです。



おにわのリビングや母子の個室、
入居しているママリクエストのご飯

ママ自身が快適な環境で暮らすことではじめて、自分や子どもの快・不快にも気がつくができるというのが私たちの発見です。

〔おにわが母子にしてきたこと②〕 心と身体の安心をつくる

もうひとつ大事にしてきたのは、身体の回復をみながら、
リプロダクティブヘルツ／ライツの学び、
家族計画と性的自己決定の学び、
希望者への避妊リングの挿入支援、
をすることです。

また、ほとんどの女性が暴力と性暴力のサバイバーであることをふまえて、

最大で5科にまたがる医療受診に同行したほか、精神科の同行支援を行い、

精神科医（斉藤里菜氏）からスーパーバイズのもとで、トラウマインフォームドケアの視点を持った生活支援の実施、
をしてきました。

出産をめぐる決定の主体をママにすることが、トラウマケアにおいても重要であることを学びました。

日本財団からの寄贈
「ポケット避妊教室」



スタッフミーティングで使った
テキスト

〔おにわが母子にしてきたこと③〕 行政とつながる

ママのなかには、自分の住民票のある場所を把握していないひともいました。
というのも、親・家族を失っていたり、
親子失調で転々と居所が変わっており、
住民票のある場所と実際の居所の場所が違う、などの事情がありました。



このことは、確定申告 ・ 生活保護 ・ 児童手当 ・ 児童扶養手当行政
の手続きを利用するための手続きが必要だったということです。

また、居所の確保は大きな課題であり続けています。

これらのために要対協にて関係機関との接続をはかり、子どもの出産
を契機に行政とつながることを試みました。

「社会的資源を使える状態まで整備しないといけない」、これが私たちの
発見したことになります。



入居している母子ひとりぶんのファイル

〔おにわが母子にしてきたこと④〕 地域での生活基盤の整備

また、退所を見通しておにわを出て地域で暮らすために、
子どもの保育園入園手続き、
子どもの定期健診、
未解決のDV・性暴力の問題に着手するために法テラス、警察同行・女相保護、
などを行ってきました。

私たちの発見したことは、**地域で暮らすための正念場がさまざまある、**ということです。

こういった問題に取り組むためにおにわ退所後、地域に戻ってからの生活相談をアフターフォローの実施によって支えてきました。

2年間で、11人のママと12人の子どもたちのあわせて23人に関わり、いまでも関り続けています。



おにわで生まれた子どもたちの里帰り

〔おにわの実施体制〕

今後、県の事業化によっておにわは医療との連携に加えて、顧問弁護士との連携を開始することができるようになりました。

一般社団法人
おにわ

24時間365日
看護師・助産
師・保育士を含
む10名のスタッ
フで対応します。



特定妊婦

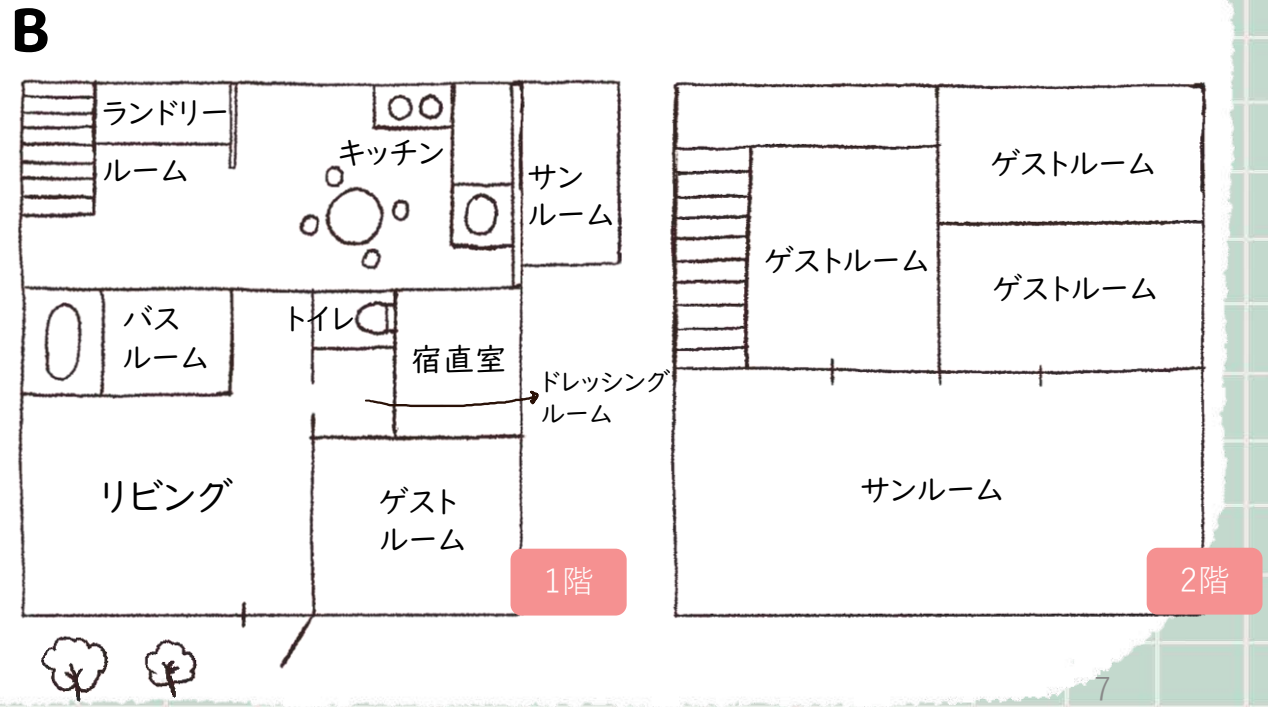
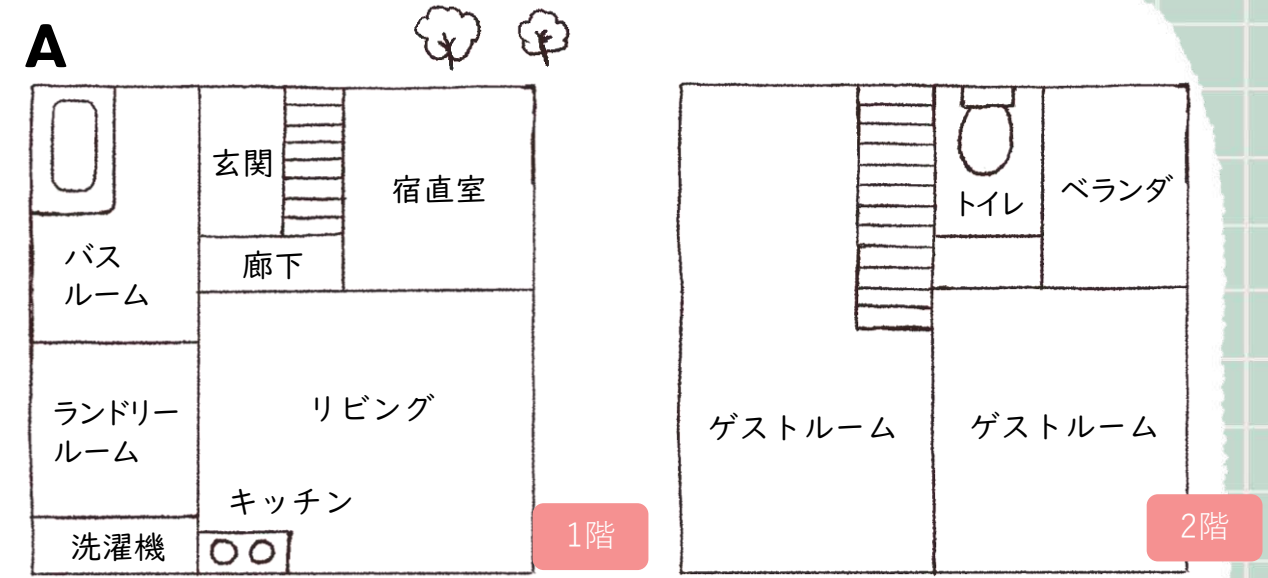
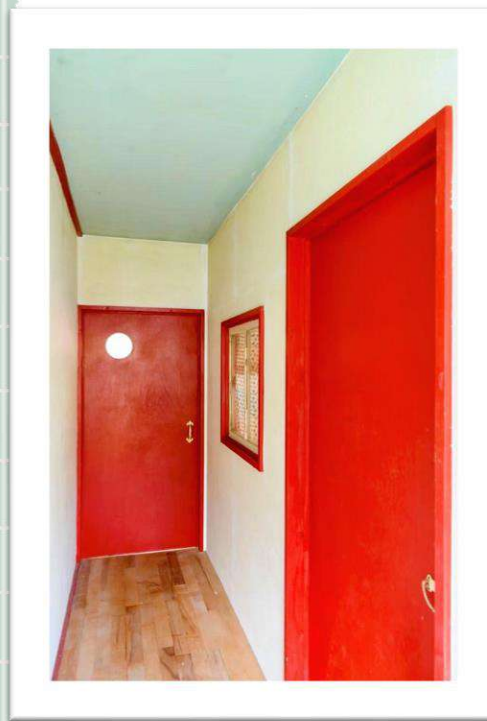
株式会社 アソシア

公益財団法人
みらいファンド沖縄

出産受け入れ病院 琉球大学病院周産母子センター 周産母子センター
トラウマ関連のスーパーバイズ とよさきメンタルクリニック 精神科医
母子の発達のモニタリング かみや母と子クリニック 小児科医
法律相談 ひかり法律事務所 弁護士

〔おにわの場所と部屋〕

県の事業化に伴いこれまで稼働していたAから、
 琉大病院の移転を見据えてBに引越しました。
 また、2世帯から4世帯規模へ拡大しました。



おにわの卒業生たちがペンキを塗ってくれました。

〔一般社団法人おにわ設立〕

今回の事業にむけて法人化し、下記のメンバーが理事に就任しております。

代表理事
理事
理事
理事
理事
理事
理事
監事

上間 陽子
伊禮 悠記
玉城 愛
仲宗根 幸子
宮城 朋子
二宮 千賀子
古謝 千尋

琉球大学 教授
おにわ現場統括 看護師
沖縄女性史研究者
しののめケアハウス代表 女性の翼理事 元女相長
子どもシェルターおきなわホーム長
Co-Link 代表理事
ひかり法律事務所 弁護士



振袖や子ども服は全国からいただいたご寄贈です。引き続き生後100日のママの振袖の着付けなどのお祝いの行事を実施する予定です。

ママたちのことば

望んだことをやってもら
えたことがないからだは
ず。あきらめるのは。

病院にカップルできているひ
とみたら、みんな不幸にな
れって思ってしまう。

DVではないと思っていた。

考えるの
疲れた。

2年半、外に出てないんです。

幸せになりたい。

あこがれの保育園に入れました。

今までずっと大人
が決めてきたから
どうせ大人が決め
るんでしょ。

ごめんごめんごめん
ごめんってひたすら
謝ったら怒りはおさ
まる。



自分よりも
もっと大変な
人がいると思
うから、自分
は大丈夫。

選んでいいの？

こんなにかわいいって言われた
のはじめて。

市役所のひと
の説明わかり
やすかった。

ずっと大変だったけどおに
わにつながるためだったと
思う。

内視鏡検査やらないでいいって。病
院が話を聞いてくれました。

役場のおかげ！

入院して一番苦手だった助産師
が一番好きになった。

これらは私たちが2年間で聞き取ってきたママたちの言葉です。これからもママたちの望みをひとつでも実現できるように働いていきたいと思っています。

沖縄の新聞などでも取り上げてもらいました。

沖縄タイムス 2023年10月25日付 暮らし面
「特定妊婦らの温かい家に：『おにわ』県事業として始動」

<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1244762>

琉球新報 2023年10月15日付 社会面
『あなたが大切』伝えたい：若年妊産婦施設『おにわ』県事業に」

<https://ryukyushimpo.jp/news/national/entry-2375327.html>



暮らしの手帖

武田砂鉄さんと、おにわの代表理事の上間陽子の対談が掲載されています。

暮らしの手帖 2023年9月25日発行
58-65頁

「これからの暮らしの話をしよう：
武田砂鉄×上間陽子」

